

残そう、自然の宝石箱・のりくら

くらがね通信

No.29 (夏号)

乗鞍岳と飛騨の自然を考える会

平成19年 7月20日発行

自然観察会案内

参加無料

アサギマダラ マーキング会

アサギマダラは、翅(はね)を広げると 10cm ほどになる大型の蝶で、日本全国で観察されますが、渡りをする蝶としても有名です。渡りについてはまだ分からないことが多く、翅にマーク(印)をつけることによって、その謎が少しずつ解明されるようになってきました。

昨年、高山市高根町日和田でマークされ放されたアサギマダラが、沖縄本島に近い鹿児島県喜界島で再捕獲されたことが新聞に掲載されました。(移動距離 1,100 ㎞) 日和田ではアサギマダラが多く観察されますので、私たちもマーキングして渡りの謎の解明に役立ててみたいと思います。

鈴木利文氏の指導で小学生でも出来るマーキング会です。夏休みの一日、涼しい高原へ家族、友人も誘って参加してください。待ってまーす。

期 日 平成 19 年 8 月 19 日 (日) 少雨決行

集合場所 高山市高根町チャオスノーリゾート駐車場

御嶽尚子ボルダールoad石碑前 (午前 10 時)

持ち物 捕虫網、油性フェルトペン(黒・細書き用)

メモ用紙、弁当、飲み物、日除け対策も忘れないでネ

観察指導 鈴木俊文 氏 (岐阜県昆虫分布研究会)

問い合わせ 宝田延彦 0577-34-1287 (Pm 6:00以降)

(問い合わせは前日まで。当日は現地ですので留守になります。)

アサギマダラ

アサギマダラはタテハチョウ科に分類される南方系のチョウで、翅を広げると 10cm 以上になる大型の蝶。前翅は黒、後翅は茶色の地色で翅の中央部から基部にかけてが半透明の水色。鱗分が少なく、黒い翅脈がある。

和名にある「あさぎ」とは青緑色の古称で、この部分の色に由来している。標高の高い山地に多く生息する。

★日本国内の分布： 日本全土で見られるが、北海道では稀。成虫の出現期：春～秋。

ただし、南西諸島や温暖な地域では夏はほとんど見られず、標高に高い山地や北日本では主に夏に見られ、ヒョドリバナなどに集まって吸蜜する。

アサギマダラの翅にマーキングをし、放蝶、再捕獲をすることにより、渡り(移動)の行動が次第に明らかになってきた。夏に日本本土で発生したアサギマダラは秋になると南西諸島や台湾まで南下、繁殖した子孫が春に北上し、日本本土に再び現れる。これまでに直線距離で 2,000km 以上移動した個体や、1 日あたり 200km 以上移動した個体もある。

★マーキング： 捕獲した成虫の翅の裏側の半透明部分に通し番号・捕獲場所・年月日・連絡先などを黒のフェルトペンで記入し、個体識別ができるようにする。この個体が再び捕獲されることにより、移動経路・距離などの解明が出来、全国で多くの個人や団体によるマーキング会が行なわれている。

★マーキング記録： マーキングをした個体ごとにマーキングをしたときの状況をノート(カード)に記録しておく。下記に主な記録項目を列記したので参考にしよう。

(連絡先によっては下記以外にも報告していただきたい項目もある。詳細は下記連絡先まで)

- 1) マーキング内容 どの翅に何を記入したか。
- 2) 性別 オス・メス
- 3) 個体の状態 翅の破損など
- 4) 前翅長
- 5) 捕獲日時
- 6) 捕獲場所(地名・標高等)
- 7) 天候
- 8) 気温
- 9) その他(交尾の有無・気づいた点)

尚、再捕獲の場合は記録の最初に判るように“再”と記入しておくといよい。

★連絡： マーキングをして放蝶したら、アサギマダラを調査している団体などに**必ず連絡**してください。再捕獲したときに、マーキングした時の状態等を確認でき、それにより移動の経路等が判ることになります。最近ではインターネットで簡単に連絡・登録できるので活用しよう。

★主な連絡団体(ネット)：

日本鱗翅学会・アサギマダラプロジェクト (大阪市立自然史博物館・昆虫研究室)

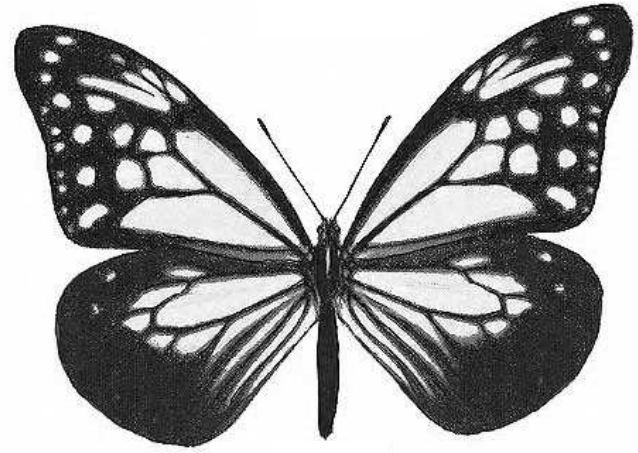
<http://www.asagi-db.org/>

アサギマダラを調べる会 <http://www.mus-nh.city.osaka.jp/kanazawa/asagi/asagi.html>

アサギマダラマーキングの広場 <http://www.asagi-org.jp/xoops2/>

アサギネット <http://yskasagi.web.infoseek.co.jp/>

※ 翅に字が書ける蝶といっても相手はあくまでも蝶です。捕まえるときやマークするときは傷つけないように十分注意しましょう。



天気予報では“曇りのち晴れ”でしたが、標高 2000m まで行くので寒さに備えて防寒着・帽子・手袋・雨具・弁当・お水をザックに入れてバスに乗る。秋神温泉には『氷点下の森』の氷が残っていた。秋神温泉ご主人の小林繁さんに秋神周辺の情報を教えていただいた。ここではシデコブシの花が咲いていたが、自然破壊で自生地が減っていると嘆いてみえた。



シラカバ原生林で散策するためバスを降りると風が冷たく防

寒具を着込む。水に流されてきた土砂にヤマハンノキがずらりと根付いていた。5・6年前にここを訪れた時には、まだまだ幼い木ばかりで鉄砲水が出たら流れそうな感じだったけど、しっかりと根を張って立派な林となっていた。その先には見事なトチの木が悠然と立っている。150年位は生きているだろうか。シラカバ原生林の中ほどで皆が立ち止まって何かを見ている。双眼鏡を覗いて見ると、モズが水たまりに下りたり、木の枝に止ったりしていた。近くには熊棚が3・4ヶ所あった。原生林の散策を終え再びバスに乗り、千間樽へと向かった。千間樽牧場付近はカラマツ林になっている。「カラマツ林のその後には二次林のダケカンバが先に生え、その後は針葉樹が生えてくる」と小野木先生が説明してくださった。

牧場の正面からは乗鞍岳が見えるはずだが、今日は雲の中。後ろには御嶽の継子岳だがこちらも雲の上。林道のそばにはオオカメノキの花が少し膨らんでいた。フキノトウのメスとオスの違いを



教えてもらうが中々分らなく、バスの中でやっと分ったもよう。うまく説明できなくてごめんなさい。

濁河温泉へ行く車中から青い鳥を見る。最初はコルリかなと思っていたら、鮮やかなオレンジ色が脇に見えたからルリビタキだったとの事。亜高山帯の針葉樹林で繁殖するそうです。直井さんと親交のある濁河温泉“ヒュッテ森の仲間”の好意で昼食の場を借り、和気あいあいと弁当を食べる。(お酒・ワイン・ビール付き)食堂の壁にキブシの花がきれいなドライフラワーになっていてビックリ。食事後、針葉樹林の遊歩道を散策する。参加者の皆さんオオシラビソとシラビソの違いが分りましたか。帰りに温泉で疲れを流す。

今日の出会いを明日の糧に、また会いましょう。講師の小野木さん、直井さん長時間ありがとうございました。

野草に習う

下田 優

田舎育ちの私は里山に自生している草花や立ち木の学名までは知らないが、地方での呼び名なら大概は知っているつもりである。しかしながら事高山植物となるとほとんど無知である。五弁何々草、三弁何々草と教えられても右から左、左から右へと筒抜けである。今更学者さんになろうとも思わないので別に気に留めることもないのであるが、皆さんの物知りには何時も感心させられる。

可憐に咲き誇る草花は、風等に運ばれて来て芽を切った場所が良からうが悪からうが、愚痴を零さず不平不満も言わず自分の一生の住家となるのである。又その場所が彼らの全宇宙とすら思っている筈である。それに比べ自分といえば、愚痴ることばかりで誠に愚かな生き物と思う。ここで私の好きな詩一首。

小さきは 小さきままに
花咲きぬ 野辺の小草の
安けさを見よ

(編集部注、高田保馬)

云うまでもなく人間の生き様を歌った句であるが、小さな草を見る度、醜いことばかりを考える本性を教えられ、自然体で生きることを、野草に習う今日この頃である。

くらがねギャラリー

絵・松崎まみ



新入会員紹介

平成 19 年 6 月末会員数 個人・家族 138 ・ 団体 4

- 会員を募集しています！ 年会費 = 個人 2,000 円 家族 3,000 円 団体 5,000 円
あなたの知人、友人に
入会をおすすめください
- ・ 郵便振替 00800-8-129365
 - ・ 振込先 乗鞍岳と飛驒の自然を考える会

くらがね通信 第 29 号 (夏号) 平成 19 年 7 月 20 日発行

発行者 乗鞍岳と飛驒の自然を考える会 〒 506-0055 岐阜県高山市上岡本町 4-218-3 飯田 洋

TEL 0577-32-7206 ・ FAX 0577-32-7207

編集室では皆さんからの原稿、ご意見等をお待ちしています。

- 編集責任者 : 宝田 延彦 E-mail : nobu1995@peach.ocn.ne.jp TEL(FAX 兼) 0577-34-1287
- 編集者 : 住 寿美子 TEL 0577-34-7237

表紙写真提供 : 小池 潜

印刷 : アドプリンター